

国語 第6学年 卒業するみなさんへ

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：詩と説明的な文章で、言葉の使い方と考えの伝え方の違いを確かめる。読んだ内容を今後の学びに関わる問いに結び付け、伝えたいことを選んで短い文章にまとめる。B(1)ア・C(1)オ・C(1)カの学習として、これからの学びへの文章。教材から考えたことと自分の問いを関係付け、参考にした作品名を示す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、読んだ内容を基に今後考えたい問いをまとめ、交流で自分の考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ア・C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：これからの学びへの文章を残す。教材から考えたことと自分の問いを関係付け、参考にした作品名を示す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ア・C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：卒業の決意だけを書いて教材と結び付かない。詩に説明文と同じ答え方を要求する。これについて、作品ごとに印象に残った言葉と、そこからの考えを分けてメモする。詩は響きや反復を音読で、説明的な文章は考えと理由の関係を確かめる。進路や夢の内容を評価しない。〔知識及び技能〕(1)ク・〔知識及び技能〕(1)ケとB(1)ア・C(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「読んだ言葉の中で、これからも考えたいと思ったのはどれですか。詩と説明の文章では、どのように伝えられていましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ア・C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：これからの学びへの文章は紙に記録できる。教材から考えたことと自分の問いを関係付け、参考にした作品名を示す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ア・C(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ア・C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：詩と説明的な文章を同じ読み方でまとめてよいか。

返し：C(1)オ・カでは読んだ内容を基に考えるが、知識・技能(1)ク・ケの扱いは作品の種類に合わせる。詩は言葉の響きや表現、説明は考えと理由を手がかりにする。最後の文章はB(1)アの材料の選択として扱う。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「読んだ言葉の中で、これからも考えたいと思ったのはどれですか。詩と説明の文章では、どのように伝えられていましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ア・C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

